

国立木浦大學校 長期留学 最終報告書

2024 年度長期交換留学

韓国 国立木浦大學校

文化学部 文化学科

213083 中野輝

◆ 韓国留学を決めたきっかけ

私は、2024年度2月から12月まで韓国にある国立木浦大學校に留学をしました。私は小学生の頃からK-POPが好きで、その頃からK-POP 漬けの毎日を送っていました。中学生になると韓国に行きたい、住んでみたいと考えるようになり、韓国留学という夢を考えたとき、以前からの夢を叶えたいと思い、大学の交換留学プログラムに応募しました。

留学前、TOPIK などは取得しておらず、本格的に韓国語も勉強したことがなかったです。韓国人と話したことがあるのは、木浦大学の学生が県立大学に語学研修で訪れた際の一度のみでした。なので、留学が始まり上手くコミュニケーションが取れるようになるのか少し不安を抱いていました。

◆ 留学生活

授業について

韓国の大学では、一つの授業が3時間で3単位もらえる仕組みになっており、授業によっては3時間を1時間半ずつの2回に分けて行うものもあります。私は一学期に4個、二学期に4個、一年を通して計8個の授業を受講しました。また、韓国の履修登録と言えば先着順なので、準備不足で挑むと希望する授業が受けられなくなります。なので、事前に模擬の履修登録ができる期間が設けられていて、その期間に履修登録の練習をすることができます。一学期の履修登録は不慣れで上手くいかなかったため、国際交流院の担当の方をお願いして履修の手続きを手伝っていただきました。二学期の履修登録の際は、一学期の経験から学び、すべて自分で登録を行い所属学科の授業以外の履修も成功しました。

私は日語日文学科に所属しており、受講していた授業のほとんどは日本文化に関連したものでしたが、授業自体は全て韓国語で行われるため、留学当初は授業のスピードに付いて行くことが精一杯でしたが、一年を通して毎日韓国語に触れながら生活を送っていたので、終盤にはメモを取りながら教授の質問に答えるなど余裕を持てるようになりました。

大学には、外国人留学生対象の語学堂が設置されており、私たち交換留学生は無料で韓国語の授業を聞くことができました。私は一学期のみ語学堂に通い、学科の授業との兼ね合いでスケジュール調整が難しかったこともあり、二学期からは自主学習で韓国語の勉強に取り組みました。

生活環境について

私は一年間、大学校内にある寮で生活をしていました。寮の部屋の構造は、一人部屋または2人部屋がほとんどですが、私の部屋は6人用で、中は2人部屋が3つに分かれていました。私の住んでいた棟の中には食堂とコンビニ、ジムが備わっていました。食堂では平日・休日とも三食ついていて、食事に困ったことはありませんでした。食堂で提供されるご飯は時間が決まっているため、過ぎてしまった場合には向かいのコンビニでラーメンを買って食べるのも特別感があって嬉しかったです。

初めの一学期の間は、日本人留学生1人に対しチューターの韓国人学生が1人ついてくれたので、その方と一緒にご飯を食べたり遊びに出かけたりして親睦を深め、生活のサポートもしてくれました。銀行口座の開設やスマートフォンの契約などもチューターが手伝ってくれたのでとても助かったし、韓国での生活がとても楽になりました。この活動の中では、お互いが仲良くなるだけでなく、韓国語と日本語を教え合ったり、日韓の文化について話し合ったりする時間も作ることができたので有意義に過ごせたかと思います。

韓国で生活する中で感じた日本との違いは様々ですが、その中の一つとしてキャッシュレスが挙げられます。韓国ではチェックカード（デビットカード）やクレジットカードが主流で現金はほとんど使用しません。なので、お店で支払いをする場合はカードで支払うかそのままお店の口座に振り込むという人が多いです。日本で口座振替というと手数料も発生するし、口座番号の流出が少し怖いと感じますが、韓国では友人との割り勘の際も口座振替で直接口座に振り込みますし、飲食店などのレジ前にも口座番号が提示されています。一年間韓国での生活を経験してキャッシュレスに慣れてしまったこともあり、とても手軽に家を出ることができるので日本でも更にキャッシュレス化が進歩することを期待しています。また、交通費の安さに驚きました。木浦市内から大学までタクシーで15分から20分かかりますが、料金が2万ウォン程度で友人と割り勘するととても安く楽に移動することができます。衝撃だったのは、韓国のほぼ最南端にある木浦から北の端のソウルまで高速バスで安くても3万ウォン（日本円で3千円程度）ほどで行けるということです。日本であれば高知から東京まで高速バスでも1万円必要なのに、3分の1の価格で大都市に行けるなんてとても羨ましいと感じます。そのため友人と韓国国内で旅行するときも交通費が安く少し得をした気分でした。

学内活動・イベント

大学では、学期の初めに学科の学生たちでMT（Membership Training の略）という合宿を行います。みんなでバーベキューやクイズ大会などのレクリエーションを行い、初対面の人とも仲良くなれる機会が設けられています。その後は、割り振られた各部屋に戻って休む人もいるし、お酒を飲んで楽しんでいる人もいました。日本では、サークルなどで親睦会があっても学部や学科で合宿に行くことはほぼないと思うので、とても新鮮な経験でしたし、知り合いを増やせる良い機会になりました。また、韓国の大学の大学祭と言えば

K-POP アイドルのステージもあるので、楽しみにしていたイベントの一つでした。2024 年度は、春と秋の大学祭で二度ステージを見ることができました。中学生の頃から慣れ親しんでいたアイドルを韓国で目の前で見ることができて、夢のような時間でした。その他にも、学部や学科内で行われるイベントが盛りだくさんで、一年の留学でしたが多くのイベントに参加し、満喫できたと感じます。

留学中に困ったこと

- ・外国人登録証について。3 月から留学がスタートしましたが申請してから外国人登録証を受け取ったのが 2 か月後の 5 月だったので、その間はスマートフォンの契約や銀行口座の開設ができず、支払いなどが少し不便な状況が続きました。

- ・国民健康保険について。韓国では 6 か月以上留学する場合、留学生であっても韓国の国民健康保険に加入することが義務付けられています。ですが、私はそれを事前に把握しておらず、学校からのアナウンスも手違いがあり届いていなかったため、留学終盤の 11 月だったので延滞金も発生してしまい、一度に大きな金額を請求されて困惑しました。しかし、国際交流員の方や学科の教授が協力して下さり延滞金を除いた金額で支払うことができました。この保険は事前に申請を行うと免除もできたそうなので、これから留学に行く方には気を付けて欲しいと思います。

◆ 留学を通して

留学当初は、拙い韓国語で伝わるかどうか不安な状態でスタートしましたが、生活の中で毎日韓国語に触れ、多くのコミュニケーションの経験から少しずつ自信をもって会話ができるようになりました。また、会話の際に間違うことを恐れてなかなか発言できない期間もありましたが、勇気をもって言葉を発してみることで間違っている韓国語の友達たちは否定することなく優しく教えてくれていたので、そのおかげで更に韓国語の力が伸びたように感じます。私は、留学前 TOPIK の受験もしたことがなく、なんの資格もないままだったので、留学最後に実力を試してみようと思い受験しました。自主学习として一人で勉強する時間もありましたが、韓国人の友人と共に学習に取り組んだことで現地の人が良く使う表現や、より自然な表現を教えてくれたので、一人で学習を進めるよりも楽しく有意義な時間を過ごすことができました。その結果、予想していたよりも高得点を取ることができ、韓国語の力が身に付いたことを実感しました。

今回の留学では楽しい思い出、苦しかった思い出、色々な感情に出会いました。その中で語学力だけでなく、国を超えた人との関係を築けたことが一番の成長だと考えます。一年を通して様々な人と出会い、お互いに人としても、日本と韓国という関係も理解を深めることができました。留学は終わってしまいましたが、これからも韓国に行く機会はあるだろうし、留学で結ばれた沢山の人の人のご縁を忘れずこれからも大切にしていきたいです。

一学期の時間割表

	월	화	수	목	금
9					
10			일본문학개론 인문대학 356	영상으로보는 일본문화 인문대학 356	
11	일본문학개론 인문대학 356				
12					
1		영상으로보는 일본문화 인문대학 356			
2					
3			현대일본문화 와ICT웹스톤 디자인 인문대학 356	일본전통문화 와스마르미디어 어 인문대학 356	
4					
5					

大学祭でのアイドルのステージ



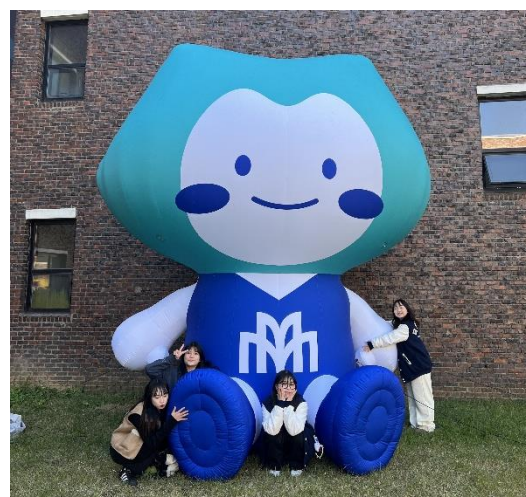
MT の時の名札の写真



優勝した体育大会



マスコットキャラクター・モッケビ



誕生日ケーキ

